

# 小学校第4学年 図画工作科 学習指導案

## 1 題材名

「見てみよう！かいてみよう！図巻物」（領内名勝図巻）

## 2 題材について

(1) 本題材は小学校学習指導要領解説図画工作編では、指導計画の作成と内容の取扱いにおいて、「『B鑑賞』は、形や色、作品などのよさや美しさを能動的に感じ取っていく資質や能力を育てる学習活動であり、『A表現』とともに、児童の造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる二つの領域として構成している。」と記されている。そして、言語活動の充実の観点からは、図画工作科においても、「話したり聞いたりする」「話し合ったりする」などの学習活動を位置付けることが求められている。

本題材は、作品鑑賞や図巻づくりなどの活動を楽しみながら、作品のよさや面白さ、表現の工夫などに関心を持ってみるとともに、それらに対する感覚を高めるようにすることをねらって設定したものである。この「領内名勝図巻」は、江戸時代後期の寛政3年(1791)正月、細川家10代斉茲(なりしげ)が、矢部地方で狩りをした際にみた滝の絵の制作を、矢野良勝(よしかつ・細川藩御用絵師・矢野家の五代)と衛藤良行(えとうよしゆき)に命じたことから始まった。その後、矢部地方ばかりでなく、細川領内の滝や名勝を実際に写生して15巻の大図巻に仕上げたものである。これらは、斉茲の参勤の折り、江戸にもたらされ、諸大名の間で評判を呼んだそうである。絵巻物とは、日本の絵画形式の1つで、横長の紙(または絹)を水平方向につないで長大な画面をつくり、情景や物語などを連続して表現したものである。絵画とそれを説明する詞書(ことばがき)が交互に現れるものが多いが、絵画のみのものである。この「領内名勝図巻」には、矢部地区にある千滝や五老ヶ滝・龍宮滝、校区にある下山七ミカド(下山水源)など、山都地方の豊かな自然が納められている。それらを授業に取り上げていくことにより、児童の学習意欲を喚起し、地域のよさにも気付かせていくことができると考えられる。また、本題材において鑑賞を行うことは、目指す資質・能力である「思考力・判断力・表現力等」の育成を通して学校教育目標「ふるさとを大切にし、心豊かでたくましく、自ら学ぶ子どもの育成」の実現につながるものであると考えられる。

(2) 本題材の系統は次のとおりである。

第3学年(10月)	第4学年(6月)	第4学年(10月) 本時	第5学年(7月)
「タッチ、キャッチさわりごち」 B鑑賞 (1) 身近にある作品などを鑑賞する活動アイ	「小さな美術館」 アルティンボルト「四季」 B鑑賞 (1) 身近にある作品などを鑑賞する活動アイ	「見てみよう！かいてみよう！図巻物(領内名勝図巻)」 B鑑賞 (1) 身近にある作品などを鑑賞する活動アイ	「かくれんぼさん」 をさがせ B鑑賞 (1) 親しみのある作品などを鑑賞する活動アイ

(3) 児童の実態は次のとおりである。

○本学級は、男子4名、女子11名、計15名の学級である。図画工作科の学習において絵を描いたり、何かをつくったり、絵を見たりする学習が好きだという児童がほとんどで、学習に関するアンケートでは、してみたいことは「絵を描きたい、版画をしたい、工作・秘密基地をつくりたい。」と答え、表現に対する意欲が高い。絵を描くことに苦手意識を持つ児童が1名いる。自分の考えを伝えることは、全員がだいたいできると感じている。また、全ての児童が「蘇陽が好き」で、それぞれがお気に入りの場所を持っており、理由として自分の家族のお手伝いや遊びで行った時に感じたことなどをあげていた。なお、昨年度の熊本県学力調査の結果では、国語・算数科の全ての領域・観点について県定着率を上回っている。

(4) 指導に当たっては、次の事項に留意する。

○本題材では、児童一人一人が自分なりの見目を育て、美術作品のよさや面白さ、表現の工夫などを見付けることができるようにしたい。そのために、本題材を指導するにあたって、次の点に留意していきたい。まず、導入時には、実物大に近い複製作品を提示したり、写真を提示したりして、そのスケールの大きさ（長さ）や作品の写実のよさを実感させるようにしたい。次に、鑑賞学習では、作品のよさを視覚的に検証することができるように写真を効果的に活用し、理解を深める手だてにしたい。また、ゲストティーチャーとして山都町教育委員会学芸員に作品や作者について話を紹介してもらったり、児童の疑問に答えていただいたりしながら学習を展開し、友人の疑問や言葉から学ぶことのできる能動的な鑑賞になるようにしたい。さらに、作品の見方や感じ方の変容などをつかみやすく、活動の様子が見えるような学習シートを工夫して作成し、製作活動の際の個別指導のポイントとしても活用できるようにする。

○研究の視点①②に基づき、次のような工夫を行う。

**【研究の視点①】**

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

- ・題材を貫く問いを設け、その問いを解決するために対話型鑑賞法を用いて、お互いの見方・感じ方を伝え合い、多くの視点から山都の風景を見ることで、鑑賞する能力を高める。

**【研究の視点②】**

学びを実感する振り返りの工夫

- ・教師やゲストティーチャーである学芸員から、児童に造形的な言葉による声かけを行う等して、児童の学びや成長に気付かせる。
- ・学習シートの中に「形や色のよさ」「形や色の面白さ」「表し方の工夫」に分けて振り返りを記録し、鑑賞する能力の高まりを実感させる。

3 題材の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

題材の目標	作品鑑賞や図巻づくりなどの活動を楽しみながら、作品のよさや面白さ、表し方の工夫などを感じ、ものの見方や考えを広げることができる。		
造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①作品を自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。 ②自他の作品のよさや面白さ、表し方の工夫などを自分の思い(イメージ)を持って楽しもうとしている。	②自分の思い描いた表現したいお気に入りの場所や物などを考えている。	②表したい場所や物の雰囲気が伝わるように、建物や周りの様子、形や色などを工夫して表している。	①作品を見て、感じたことや思ったことを言葉で表したり、友達と話し合ったりしながらよさや面白さ、表し方の工夫などを感じ取っている。

4 指導・評価の計画（3時間取扱い 本時1／3）

題材を貫く問い：山都の景色の今と昔を比べ、そのよさや面白さとは何か探ろう。

次	時	学習活動	研究の視点	評価
一	1 本時	1 「領内名勝図巻」に描かれている形や色の造形的な特徴をもとに、作品のよさや面白さ、表し方の工夫などについて関心をもってみる。	【研究の視点①】 見方・考え方に着目した問いの工夫	【関・意・態】①：観察 【鑑賞】④：発言・学習シート
二	2	2 「山都名勝・名物図巻を作ろう」と銘打ち、身近にあるお気に入りの場所や物などを絵に表し、グループで楽しく図巻づくりを行う。	【研究の視点②】 学びを深める振り返りの工夫	【発想や構想】②：活動・発言作品 【技能】③：活動・作品

5 本時の学習

(1) 目標

「領内名勝図巻」を自分なりの見方や感じ方で味わったり、描かれている形や色などのイメージを持って話し合ったりして、作品のよさや面白さ、表し方の工夫などを感じ取ったり考えたりすることができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の主な留意点及び評価	備考
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。	○まず図巻物を見せ、描かれているものを想像させ、関心を持たせる。	図巻物
	[本時のめあて]山都の景色の今と昔を比べ、よさや面白さを見付けることができる。		
	2 作品を見て、[本時の問い]について話し合う。	【研究の視点①】 作品の描かれた形や色などの造形的な特徴に目を向け、自分なりに味わうことができるような問いかけ	複製画 写真
	[本時の問い] 山都の景色の「いいね！」ポイントを2つ以上さがしてみよう。		
展開 30分	(1) 「領内名勝図巻～下山七ミカド～」の絵を見て自分なりの考えを持つ。 (2) 互いの考えを交流する。 【言語活動】(設定の意図) 感じ取ったことを言語化することで自分なりに味わったり、友人の言葉からさらにイメージを見直したりする。	能動型学習(児童が主体的に学習に取り組めるように、作品「下山七ミカド」の実物大複製画を提示し、部分鑑賞～クイズ形式～から作品鑑賞を始める。) ○写真を提示し、下山水源であることを知らせる。 徹底指導(学習シートに自分なりに感じたことや考えたことを書かせ、ペアトーク、全体交流で活用させる。) ○描かれた理由を予想し、自分の考えとその理由を作品から探す。 ○図巻にある山都町の仙瀧、五老ヶ瀧、下山七ミカド、竿渡の滝の複製絵と写真を比較して写実的に描かれていることを実感させる。 ○図巻の全体鑑賞を行い、作品を見て感じたことやもっと知りたいことなどを発表させる。	学習シート
	(3) 「領内名勝図巻～菅尾手永～」を鑑賞し、[本時の問い]について考え、学芸員さんに確かめる。	○描かれた理由を予想し、自分の考えとその理由を作品から探す。 ○図巻にある山都町の仙瀧、五老ヶ瀧、下山七ミカド、竿渡の滝の複製絵と写真を比較して写実的に描かれていることを実感させる。 ○図巻の全体鑑賞を行い、作品を見て感じたことやもっと知りたいことなどを発表させる。	付箋紙 図巻物
整理 10分	3 学習したことをまとめる。 (1) [本時の問い]に対する分かったことや気付いたことをまとめる。 (2) 作品のよさや面白さ、表現の工夫などについて自分の感じたことや、話し合っただけで考えたことなどを伝え合う。	評価：思考・判断・表現(学習シート・観察) B基準 作品を見て、感じたことや思ったこと、考えたこと、友人と話し合ったりしながら感じ取った「よさや面白さ」「表し方の工夫」などを、自分の言葉や文章で説明しようとしている。	
	4 学習したことを振り返る。	A基準 B基準に加え、友人の発言から具体的に感じ取ったことを発表したり、作品から根拠となる視点を示しながら自分の言葉や文章で説明したりしようとしている。 <B基準に達していない児童への手だて> ○感じたこと等を言葉にできない場合は、個別に教師や学芸員から声かけを行い、児童の考えを引き出し、表現しやすい環境を整える。	学習シート 使用する ICT 電子黒板
		○友人の意見を聞いてなるほど!と思ったことについて出し合わせて振り返るとともに、図巻を描くことを知らせ、次時への意欲を高める。	